

大阪 ひと語り LGBTを「当たり前」に

ゲイであることを公表し、パートナーと2人で、大阪市北区に弁護士事務所をかまえる南和行さん(44)。講演や書籍出版など幅広い活動で、自身の経験を伝えていきます。LGBTが当たり前前に暮らせる社会を目指して。

中学時代、好きな男の子がいました。でも、当時、「同性愛」なんて言葉は知らず、「自分は頭がおかしいんじゃないか」と悩みました。友人と好きな異性の話になると、女の子の名前を挙げて、ごまかすことばかりを考えていました。大学3年の時、パソコンを買いました。同性愛者の自分

LGBT レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(心と体の性が一致しない人)の英語の頭文字を並べた総称。約9%がいずれかに該当するとの調査結果があり、左利きやAB型の人とほぼ同じ割合とされる。

ゲイのパートナーと弁護士事務所を運営 南和行さん 44



大阪市住吉区出身。京都大学院卒業後、住宅建材メーカーに勤めたが、1年で辞めて大阪市立大法学部に進み、2009年、大阪弁護士会に登録した。パートナーは吉田昌史さん。18年には、夫婦に相当する関係と認める大阪市の証明書を受け取った。

にとつて、匿名で人とつながれるインターネットはとても便利なツールでした。ゲイの交流サイトで仲良くなった男性と会い、性的な関係を持ちました。同性愛者として生きていくことをはっきり自覚しました。

困ったのは周囲へのカミングアウト。大学の友人には伝えられても、家族や幼なじみにはなかなか言えません。京大大学院生だった2000年、思い切って母親(76)に切り出すと、ひどい言葉が返ってきました。「不幸の中で生きる覚悟はあるんやな」それでもあきらめません。「おかしいことじゃない」と何度も説き、つきあっていた今のパートナー、吉田(昌史)君(42)がどれだけ優しい人かも伝えました。最終的にわかってくれたの

は11年。結婚式を挙げ、友人らに祝福される僕たちを見たからそうです。

13年、2人で「なんもり法律事務所」を開きました。写真で右に写っているのが吉田君。笑顔がステキなんです。母も事務員として支えてくれています。

仕事の大半は、離婚や不動産トラブルなど珍しくない内容ですが、LGBTの方々からの相談も寄せられます。講演の依頼は年40〜50本あり、自治体主催の市民講座や高校の先生向けの研修で話すことが多いです。

僕の話聞いて、「同性愛者って近くに普通にいるんだ」と思ってもらえたら十分。いつか、その人が周囲から同性愛者だと打ち明けられたとき、「南っていう弁護士もいたしね」と少しは受け止めやすくなるのではないのでしょうか。

◇

この10年で、同性愛者の存在は少しずつ知られるようになってきました。でも、差別はなくなっていない。

先日、ある自治体で講演した際、参加者の一人から「同性愛者が広まったら、(日本が)滅ぶ」と発言して批判を浴びた地方議員がいたが、その通りではないか」と意見が出ました。以前なら、苦笑いで受け流したかもしれませんが、この時は正面から言い返し、会場の空気が張り詰めた。

でも、後悔はありません。うやむやに終わらせていたら、他の参加者が「同性愛者ってひどいことを言われてもいい存在なんだ」と勘違いしかねないからです。

僕は、同級生にゲイだと知らされて亡くなった一橋大生の訴訟で、ご遺族の代理人を務めました。彼から生前に相談を受けていましたが、救えなかったのです。

同性愛者だと知られたり、隠すことに疲れたりし、自殺を考えた学生さんは他にもいると思います。

でも、絶対に死なないでください。嫌な思いをする日がなくならないでほしい。でも、大人になれば、つきあう人を選べます。家族と違って離れられます。いろんな生き方ができるんです。「今はしんどくても、いつか良くなる」。そう言い聞かせてほしいのです。(河下真也)